## 開館期間・休館日　(概ね毎年同じ予定)

**10月10日前後～11月30日**

※水曜日は休館日です。ただし、水曜日が祭日の場合は開館します。
※10月の最終の水曜日は開館、11月中は全日開館します。

## 開館(園)時間

**●午前 9：00 ～ 午後 5：30**

※泉恵園は午後 4 時まで入園でき、午後 4 時 30 分に閉園します。
※記念館は午後 4 時 40 分まで入館でき、午後 5 時 30 分に閉館します。

## 入館(園)料金

下記の通りです。

| 大人・大学生・専門学校生 | 高校生以下 |
|---|---|
| 1,000 円 | 無料 |
| 団体は20名以上で100円引きになります | |

※中学・高校生は学生証の提示が必要です。
※身障者(身体および療育)の方はご本人は半額、付添の方は身障者の方一人につき、お一人が半額となります。(証明する各種手帳の提示が必要です。証明書のない場合は、いかなる場合も通常料金となります。)

※開館時間、料金等は予告なく変更になる場合があります。

※本パンフレットは2025年10月1日現在の内容です。

緊急工事等で急に休館する場合もありますのでご来館前に必ずホームページでご確認ください。

2026. 10. 10,000.HA

## 入館(園)券について

- 入館(園)券は、記念館、泉恵園共通です。券売機でお求めの上、そのまま自動入場ゲートからお入り下さい。
- 身障者の方、団体適用の方は受付で券をお求めください。
- 入場ゲートから一度退場すると、その券は無効になります。再入館(園)には、あらためて入館(園)券の購入が必要です。

## 交通アクセス・駐車場

**車をご利用で高速下車の場合**

●三条燕ICから35分
●新潟西IC、新潟中央ICから30分
●亀田ICから25分
●新津ICから20分、安田ICから30分

**JR、他交通機関、徒歩の場合**

●新津駅よりタクシーで約15分・バスで25分
●矢代田駅よりタクシーで約3分・徒歩で約20分

〈駐車場について〉
※駐車場は下記のPの場所にあります。
記念館の最寄りの駐車場はP1 P2になります。
観光バス等はP2になります。
植物園等の駐車場からは徒歩で約10分かかります。
※紅葉の時期の期間中の土日祝日の昼前後は特に混雑し、空きの無い場合が多々あります。
※路上駐車はできませんのでご注意下さい。

注) 当館の開・閉館の日程、事業、企画展示の内容、イベント等は都合により変更になる場合があります。

## マップ




紅葉の状況や近隣施設の情報は当館ホームページでご覧下さい。

公益財団法人 中野邸記念館

〒956-0845　新潟県新潟市秋葉区金津598番地
TEL 0250-25-1000／FAX 0250-47-4545
URL http://www.nakanotei-muse.com/ e-mail momiji@nakanotei-muse.com




# 石油王の館

公益財団法人 中野邸記念館

## ― 中野家について ―

中野家はこの地で代々庄屋を務める豪農で、江戸時代に泉舎と号して、この地で自噴する油を扱う草生水（くそうず）油稼人を兼業していました。

貫一は14歳で父を亡くし、明治6年に新潟県庁に所有地での本格的試掘を申請し、28歳の時に、若干の出油に成功しました。しかしながら、その後の採掘は失敗の連続で、家産は傾き、親族知縁者からも諫められる状態でしたが、初志を貫徹し、最初の試掘の成功から29年目の明治36年、58歳の時に、初めて採算の取れる商業規模の油田を掘り当てました。その後も、幾多の苦労を経ながら、16才しか年齢の離れていない長男忠太郎と積極果敢に事業を行い、日本の三大産油業者の一つに成長し、「日本の石油王」と称されました。

その産油事業は、第二次世界大戦時に国策（帝国資源開発法）が発布されて国内業者が一社（帝国石油株式会社の前身）に統合されるまで続きました。国内産油が日本の石油消費の約三分の一を支えていた時代をまさに象徴する人物でした。

## ― 記念館について ―

当館は明治から昭和初期にかけて、石油の歴史を造り、日本の石油王と言われた、中野貫一と忠太郎親子が建造した明治の豪壮な館、蔵と当地の近隣住民の失業対策として、あえて永年に亘り築造された日本有数のもみじの本数を誇る広大な庭園（泉恵園）が見どころです。又、中野家に伝わる江戸時代からの貴重な品々も展示されています。

## ― 中野邸記念館全体図 ―




（注）当館敷地内の水道の水は飲まないで下さい。

**飲料自販機**
※飲料自販機はここにしかありません。

**ご自身のスマホで音声ガイドを聴くことが出来ます**

スマホのカメラ機能で、QRコードを読み取って下さい。
表示された画面で、解説の言語（日本語・英語・中国語）を選択すると、解説文が表示されます。
さらに、▶ を押すと、音声が流れます。

## ― 邸宅敷地及び建物内部について ―

往時建坪約650坪（新館含む）の建物の内、現存する総二階建て約250坪の邸宅です。往時の設えを再現してあります。



**一般客の応接室**

平成8年まではこの状態で使用されていました。
一般の来客は全てこの部屋で応対していました。
※邸宅入口のすぐ左手の部屋です。（1階）



**賓客用の和室**

賓客のもてなしに使用されました。
座布団は絹製の特注家紋入りで100年近い時間を経過したとは思えないほど今も鮮やかな色彩を保っています。（1階）



**賓客用の応接室**

昭和30年代の改造で和室を洋間として使用していました。
改造前は床の間の上に大きな神棚がありました。（1階）



**賓客の間**
（和室二部屋続きで和洋折衷の設え）

昭和32年高松宮殿下お立ち寄りの際に使用されました。
他には、小林一三（阪急電鉄創業者）、松永安左エ門（日本の電力王）、天才芸術家北大路魯山人なども使用。宿泊できるように造られました。（2階）

**女中部屋**

最盛期は女中や様々な仕事をする若い男衆で10人以上が住み込みしていました。他にも多くの乳母がいました。宙吊りの部屋は若い女性用で、就寝時は梯子を部屋に引き上げ、男衆の出入りができないようにして就寝しました。（1階）



**当主の部屋**

貫一57歳の時にこの邸宅は完成しましたが、貫一は衆議院議員として上京する以外は大半をこの地で暮らしました。息子忠太郎は東京暮らしが多く、他の部屋も利用していたようです。主としてのこの二部屋が代々の当主の部屋として使用されていました。忠太郎は碁を趣味とし、深夜に独りで碁を打っていた伝えられています。和室二部屋続きです。（1階）





主庭　　中庭（池庭）

### ＜一の蔵＞

折々に企画展示を行っています。
注）企画展示はおこなっていない場合もあります。



### ＜三の蔵＞

1階　中野家ゆかりの品々を展示
2階　企画展示室
注）企画展によって展示内容は変わります。



### ＜五の蔵（泉舎温故館）＞

蔵の入り口から内部を観覧する形になります。2025年初公開の蔵です。往時の中野家の繁栄を感じていただけます。泉舎（いずみや）とは中野家の江戸時代からの屋号です。



### ＜邸宅内：矢野正善記念室＞

今まで二の蔵で展示しておりましたが、2025年から邸宅の一室に移動しました。
アナログ撮影時代ですが、矢野先生の撮影技術が如何に優れていたかを見ていただけます。

